



# みどりの風

平成28年1月8日発行  
校報 第526号  
(みどりの風 第69号)  
練馬区立関町北小学校

## 新しい一年を迎えて

校長 大野 泰弘

あけましておめでとうございます。

保護者、地域の皆様におかれましては、お健やかによき新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。本年が、皆様にとりまして、ますますご健勝で、幸多い一年となりますことを願っております。

年明けは、北海道など一部の地域を除いて、全国的に概ね穏やかな新春となりました。しかし、これから強い寒波がやってくることも予想されますので、子どもたちの健康には十分気を付けてまいりたいと存じます。

今日から、学校には子どもたちの元気で明るい笑顔が戻ってきました。今年度も残すところ、3ヶ月ほどになりました。引き続き、子どもたちが安心して、笑顔や喜びに満ちた充実した日々を送ることができるよう、教職員一同、一所懸命努力してまいります。

さて、私は「心を開き、夢を育てる」という基本的な考えをもとに学校をお預かりしておりますが、昨年の1月号では、一昨年に行った東京都教育委員会言語能力向上拠点校としての研究発表会や開校55周年の記念行事を通して得られた成果などを定着していくために、「継続 Continuation」・「連携 Cooperation」・「創造 Creation」の言葉を意識して一年間を過ごしたいとお伝えいたしました。振り返ってみると、多くの保護者、地域の皆様の力強いご支援のもと、子どもたち読みの力や読書活動に対する意欲などをさらに高めることができた一年であったと思います。しかし、その一方で、子どもたちの体力面における課題も垣間見られたと感じております。

そこで今年「申年」の年初にあたり、申は「しん」と読みますので、言葉遊びではありませんが「しん」のつく言葉を念頭において、今年度の学校の教育活動を展開していきたいと考えました。具体的には、

4月から練馬区で実施される「新」たな3学期制を見据え、これまでの教育活動の成果を継続しながらも、子どもたちにとって、より効果が期待されると思われる「新」規の活動にも挑戦していきたいと考えています。

やがて改訂される小学校学習指導要領の方向性の一つと言われている21世紀型能力としての「基礎力・思考力・実践力」等の育成、また、「知・徳・体」の調和のとれた人間形成をめざして、様々な教育活動を着実に推「進」していきたいと考えています。

子どもたちの「心」に寄り添いながら、子どもたち一人一人の多様な個性や能力を「伸」長し、人としてのより「真」なる道を探求していくことにつながる教育活動を実践していきたいと考えています。

学校と家庭・地域社会との揺るぎない「信」頼関係のもと、子どもたちの笑顔に溢れ、将来に向かって大きな夢や希望を育むことのできる学校づくりをさらにめざしていきたいと考えています。

ということです。

学校では、先月保護者の皆様にご協力をいただいた「関町北小学校の教育についてのアンケート」の結果分析をすすめ、来年度の教育課程を編成していくこととなります。その中で、上記のことが絵に描いた餅に終わってしまうことのないように、議論を尽くし、子どもたちにとってよりよい教育課程になるように努めてまいります。

その中では、新たな3学期制の実施、特別支援教育の推進、小中一貫教育の充実等々の練馬区や東京都の施策も踏まえながら、建設的に取り組んでいきたいと考えています。

この一年も教育目標の「共に生きる」という精神を尊重しながら、本校に通う全ての子どもたちにとって、よりよい教育実践を積み重ね、魅力・信頼・活力にあふれた関町北小学校にしていきたいと思いますので、保護者、地域社会の皆様の変わらぬご理解、ご支援、ご協力のほどをお願い申し上げます。